

「日々の理科」(第2093号) 2020,-4,-2
「この子どもたちにしてあげられること(1)」

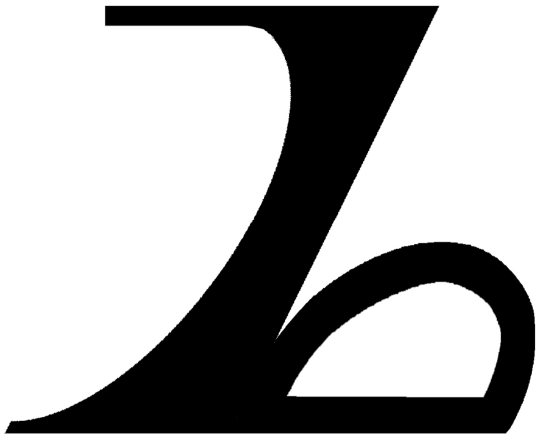
お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

3月16日に、私と4人の仲間が担任してきた6年生が卒業していった。卒業式前日まで2週間以上の臨時休業、卒業式前日にたった一回の卒業式練習。卒業式本番も、席を一つずつ空けて座り、保護者の方は一人だけ、来賓の方もいっしょらず、少し寂しい式だった。恐らく百年前から変わっていない、日本一古風な小学校卒業式だと思うが、わずかな練習時間で、子どもたちは実に立派に成し遂げてくれた。子どもたちは「卒業式ができただけよかったです」と言って、笑顔で学校をあとにしていた。

本校では「学年愛称」と「学年マーク」という伝統があって、入学時に担任が考える。学年が2年・3年と進級してもマークや愛称は変わらず、卒業まで受け継ぐ。良い伝統だと思う。卒業後、例えば同窓会でも「〇〇学年同窓会」という名称が残り、卒業生に会えば「〇〇学年の誰々です」と言ってもらえれば、すぐに思い出せる。



今年卒業した学年は「そよぐ学年」という愛称だった。愛称は、1年担任が子どもたちの成長の思いをこめて名づける。マークは入学年度の数字に因むものが多い。このマークは当時の1年担任に依頼されて、私がデザインしたものだ。平成26年入学なので、「2」と「6」をデザインしたものだったと思う。

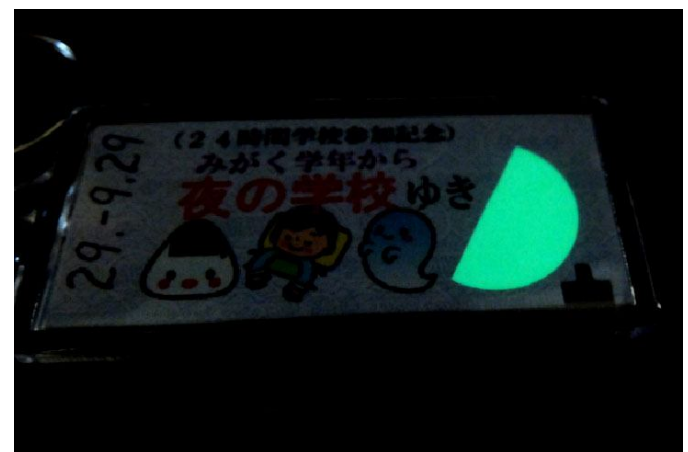
私は教務主任をしていた2年・3年では副担任、5年で担任、6年では学年主任をした。4年間も関わり、

しかも下学年で担当した学年なので、思い入れが強い。あまりにも思い出が多く、まだ頭の中で整理できずにいる。



これは、2年生の時の「月の学校」の様子。満月(スーパームーン)の時に、遅くまで学校に残って、みんな「満月が昇ってくるころ」を観察した。写真は月が昇る前の「スライドショー」屋上の校舎壁面(約300インチ)にプロジェクターで、私が撮影した星の写真を投影し、「屋上プラネタリウム」を楽しんだ。右側のフェンス下には、子どもたちが作ったキャンドル・ランタンが並んでいる。

翌年の3年生の時は、「三日月を観る会」をした。残念ながら曇って三日月は見えなかったのだが、クロワッサン(フランス語の三日月)を食べながら、曇りの夜空を眺めた。その時の「記念品」(おみやげ)は「光るキーホルダー」だった。



こんなイメージだ。これは他の学年の「光る半月」だが、そよぐ学年では「光る三日月」のキーホルダーを作ってあげた。ほとんどの子どもたちは、今でも大切に持っているという。卒業の記念品として、この「光るキーホルダー」をもう一度作って、一人ひとりに手渡したいと思った。